

(仮称) 宮前区「希望のシナリオ」実現プロジェクト

宮前区らしいしくみ「ラウンドテーブル」をお試し実施しよう！

ミーティング3：宮前区らしいソーシャルデザインセンターを考えよう

令和4（2022）年3月13日（日）13：30～16：30

## 第1部：アンケート結果 | ラウンドテーブル編

注釈

\* [ ] 内は動画や画面上での操作に関する補足です。実際に発言している内容ではありません。

\* SDC：ソーシャルデザインセンターの略

### 00:00:00 [音楽] タイトル画面

00:00:06

株式会社石塚計画デザイン事務所 千葉：

- ・アンケートの中でどんなラウンドテーブルの振り返りが出てきたかということで吉川から紹介させていただきます

株式会社石塚計画デザイン事務所 吉川：

- ・まず皆さんお忙しい中アンケートにご協力いただき本当にありがとうございました。
- ・なぜアンケートを実施したかという簡単な振り返りなんですけど、皆さんから参加していただいたお試しラウンドテーブルはどんな効果があったのかとか、成果と課題はなんだったのかというのを確認することと、あとはお試しラウンドテーブルを経てソーシャルデザインセンターのあり方について皆さんのご意見を伺いたかったというのが大きな目的となっております。
- ・大きく二つのパートでアンケートは構成されていたと思います。
- ・前半がお試しラウンドテーブルの振り返りと後半が宮前区ソーシャルデザインセンターのあり方についてでした。
- ・まずはお試しラウンドテーブルに関するご意見のところについてご説明をさせていただきたいと思います。
- ・今日のソーシャルデザインセンターのあり方の検討に繋がるポイントを共有させていただきたいと思います。

00:01:11

吉川：

- ・まず結論から先に申し上げさせていただきます。

- ・成果のところは山田さんから結構お話しいただいたんですが、多様な立場の人の意見を聞いて出し合うことでいろいろな発見や気づきに繋がったということであったりとか、
- ・特にこの二つ目ですね、アンケートから見えてきたことなんですが、テーブルごとに得られる効果はテーブルで掲げているテーマであったり話題によって異なりはしたんですが、共通して効果があるっていう評価が高かったものが二つありました。
- ・それが地域の資源を知るってということと、ノウハウ、参加してくださった皆さんのノウハウを共有するってところが三つのテーブルに共通して効果が高いという評価になりました。
- ・あとは、一つの主体では実現できないことが実現できた。先ほどのガイドラインのことであったりとかなどなど、そういった視点もありました。

00:02:13

吉川：

- ・次に今後の課題というところで、皆様のご意見からまとめて整理をさせていただきました。
- ・まずテーマと目的の設定と共有というところで、ミーティングの目的が分かりづかったというご意見とかたくさんいただきました。
- ・進めていく上で課題の方向性が変わっていったりとか、出入り自由でいろいろな人が途中から参加してくるという視点もあるということから、やはり都度ちゃんとどういった目的で実施しているのかということ共有して確認して行くことが大切だというご意見がありました。
- ・次にイベントだけではなく、地域の課題を吸い上げるにはということで、今回3つラウンドテーブルを実施したのですが、二つがイベントを実施するというタイプのものだったのですが、でも中にはラウンドテーブル2で取り上げたように課題をどう解決するかというタイプのラウンドテーブルがすごく良いテストケースなんじゃないかなという意見をいただきました。
- ・そういった地域の課題を吸い上げてソーシャルデザインセンターとして解決策を考えていくといったことをするためには、どうしたらいいかという課題をいただきました。
- ・次に「人や活動をつなぐ／巻き込むには」ということで、多様な人が参加するからこそお互いを理解し合える雰囲気づくりであったり、つながるしかけが必要ということで、やはり安心してお話できるとか受け止めるというような雰囲気づくりであったりとか、参加してくださった方がその場だけでのつながりだけでなく、今後もつながっていけるようなしかけが必要になるというご意見もいただきました。
- ・次にノウハウの継承であったりとか、場の活用とか実際に実現をしていくためにはやはり、一回や二回ラウンドテーブルを開いただけでは難しく、活動であったりラウンドテーブルの積み重ねであったり、地道な働きかけが必要というようなご意見もいただきました。
- ・あとは今後、やはりいろいろな多様な主体が連携するプラットフォームになった時に、新陳代謝を生みながらいろいろな人が関わっていくことが大事ということで、若い世代であったりとか、町内会の人参加できるといいんじゃないか、そういったいろいろな人を巻き込むしかけが必要という意見がありま

した。

- ・最後は運営体制についてなんですが、今後こういった、例えばラウンドテーブルを実施していくとなった場合、それを継続していくための体制が必要なのではないかという課題もいただきました。

00:05:06

吉川：

- ・まず効果についてなんですが、これが全テーブル [テーマに] 関係なく効果があった、特に高かったものを3つピックアップしました。
- ・この緑の棒グラフが「効果があった」という点になりまして、その「地域の資源や活動している人について知ることができた」とか、「ノウハウが共有できた」とか、「地域の課題の解決や実現したいことのアイディアが深まった」ということが全体として効果が高いという評価になりました。
- ・ラウンドテーブル1につきましては、やはり公園を活用するテーブルだったので、その活用に関する理解が深まったとか、実際に活用が進んだというところの効果が高いという評価をいただきました。
- ・ご意見もいただいております、行政や町内会、公園のマルシェの運営とか実施に参加することによって、活動の広がりであったり、安心感を感じたというご意見もいただきました。
- ・あと気になることとしては、やはりイベントも、既に決まっていたものに参加させていただいたということで、本当にそれを実際にやっていくにはその活動の積み重ねであったり、その準備段階からちゃんと関わっていくこと が必要だというご意見をいただきました。
- ・次にラウンドテーブル2 についてです。
- ・ここですごくやはり特徴的だったのが、「地域課題の解決や実現したいことのアイディアが深まった」ということで、イベント型ではなくこの課題を解決するためにどうしたら良いかというアイデアを考えるグループだったので、この3つのテーブルの中で最も評価が高かったです。
- ・一から課題を検討するテーマをラウンドテーブルで考えるので良かったのではないかと、という意見もありました。
- ・一方で実際にそのアイデアを実施するということにはいかなかったのが効果を評価するのはまだ早いのではないかと、という意見もありました。
- ・最後、ラウンドテーブル3 です。
- ・民間企業との連携ということだったので、「[民間企業との] 連携が進んだ」であったり、「民間が保有する地域の活用が進んだ」というところの評価が高かったことが特徴となっております。
- ・こちらイベント [実施] 前なので、効果が実感できないというご意見もいただいております。
- ・ここからが、ラウンドテーブルの進め方についてなんですが、概ね緑の「よかった」というご意見いただいているのですが、コメントもたくさんいただきまして、課題としてあがったところを主にピックアップさせていただきます。
- ・一つ目が、ラウンドテーブルはイベントを実施するためのしくみなのではないかという勘違いをされて

しまいそうということで、ちゃんと地域の課題を解決するという場だということをもっと議論する必要があるのではないかというご意見でした。

- ・あとは、ミーティングのゴールが不明瞭だということだったり、進め方が慌しかったり、実際にノウハウを継承していったり場所のシェアに繋げるためには、自己紹介するだけではだめで、お互いにちゃんとつながるであったりとか、継承につながる働きかけが必要だというご意見もいただいております。
- ・ラウンドテーブルへの今後の参加については、概ね「参加したい」という風におっしゃっていただきました。どんな形で、どんな関わり方が想像していただけるかというところで、主にラウンドテーブルメンバーとして回答してくださっている方が多かったです。
- ・一方で4人の方から「プロジェクトオーナーとしても参加したい」という風におっしゃっていただきました。
- ・その他のご意見についてですが、とくに左の一番下の実際にアイデアの実現には行かなかったけど、素敵なアイデアが出たので、ぜひ実現できるといい、というご意見もいただいております。
- ・ここまでがラウンドテーブルの効果に関するアンケートでして、次に第一回 [ミーティング1] の時にとらせていただいたアンケートについて簡単に紹介させていただきたいと思います。
- ・山田さんお願いします。

00:09:04

山田：

- ・公共施設の地域課のアンケートということで、第一回 [ミーティング1] のときに出していただきました。
- ・今回ラウンドテーブルを通して、特に、テーブル1では公園についての検討が進んだということで、使ってみたい施設でも一番票が多かったところではあります。
- ・今回、進めてきた中では、公園の活用を進める上で一番重要だったのは、管理の面です。
- ・また、公園の使用許可については、許可「できる」「できない」の判断基準が市の中で明文化されていないことがポイントだったと思います。
- ・こども文化センター、区役所市民広場、市民館、団地、また、駅前広場ということで、使いたいものがたくさんが官民間わず、あがっています。
- ・それこそ、それぞれの事情で基準も違いますので、今後もまたニーズの高い施設についてさらに検討を今後一つ一つ、ぜひ進めていければと思っています。
- ・アンケート結果については資料に付いていますので後ほどご覧いただければと思います。